

日本医史学会会報

47号(復刊)

平成23年10月30日

第113回日本医史学会総会開催にあたって	会-1
第112回日本医史学会総会及び学術大会参加記	会-2
第112回日本医史学会総会	会-4
平成22年度支部・研究会報告	会-17
法人化についての経過報告	会-24
雑報(その他事業報告・寄贈本リスト)	会-25

第113回日本医史学会総会開催にあたって

総会会長 寺野 彰

この度、伝統ある日本医史学会の第113回総会・学術大会を担当することになりました。獨協医科大学といたしまして大変光栄に思いますとともに、酒井シヅ理事長をはじめ関係者の方々に心から感謝申し上げます。本学会は明治25年設立という我が国でもっとも古き伝統を有する学会であり、日本医学会のなかでもっとも権威ある学会であります。

このような学会を創立40年のある意味で若い大学が担当すべきかどうかはじめは若干の当惑を感じたのであります。しかし、学会の特別講演にもありますように、本学の母体である学校法人獨協学園は、明治14年(1881年)独逸学協会、明治16年(1883年)独逸学協会学校として、ドイツ学、法律を専門として設立され、プロイセン憲法をモデルとして作成された明治憲法に大きく貢

献したのであります。その後、医学系教育に力を入れ、ドイツ学が主流であった当時の医学に大きく貢献し影響を与えたのであります。戦前、帝国大学をはじめとするあまたの医科大学に数多くの人材を送り出しております。戦後アメリカの占領下、苦難の時もありましたが、「中興の祖」天野貞祐元文部大臣を校長に戴き、「大学は学問を通じての人格形成の場である」との教育理念の下、昭和39年、埼玉県草加市に獨協大学を、昭和48年当地栃木県壬生町に獨協医科大学を創立して参りました。従いまして、医科大学は未だ新進気鋭ではあります。その基盤は130年の歴史を持つ獨協学園であるということが出来ます。本学園は、獨協大学、獨協医科大学、姫路獨協大学、獨協中高等学校、獨協埼玉中高等学校を擁する全国でも有数の学園であります。医科大学としましては、壬生

町の大学病院、埼玉県越谷市の越谷病院、鬼怒川の日光医療センターを擁し、計約2,100ベッドの病院であります。平成25年は開学40周年に当たり、現在準備途上にあります。

さらに、今回酒井理事長に壬生町において戴きまして、壬生町として明らかにしました我が国での女性看護人第1号の発祥地であることを認証していただきました。もともと、壬生町は江戸時代鳥居藩として栄えた場所なのですが、当時すでに人体解剖も行われて「解体正図」という立派な解剖図譜も作成されておりました。斎藤玄昌という医師の下で種痘も実施され、太田胃散も本藩で作られ、宇津救命丸も栃木でうまれています。このように、本学の位置する壬生町は古くより医学が発達し、最近では壬生町に「蘭学通り」というアベニューもできているのです。

そこで、本学にご来駕頂きました酒井理事長から本学会「第113回総会・学術大会」をやらなかと勧められたわけでありまして。私ども本当にありがたく感じまして、この度喜んでお引き受けしたわけです。

本学術大会には、会員の皆様のご協力によりまして、多くの演題が期待され、特別講演などにも

多くの著名な先生方にご了承を戴きまして、大変活気のある学術集会になると期待しているわけがあります。そのために、一般口演はもちろん、「会長講演」及び「特別講演」等で学会員の活発な学術研究の場となり、さらには広く一般市民の方々に医療史の理解を深めていただくための特別企画として、「市民公開シンポジウム」や「(仮称)医薬品・医療機器の歴史(展示)」等、多くの企画を予定しております。

栃木は、日光、中禅寺湖、鬼怒川温泉、那須、大谷石など数多くの観光地に恵まれております。ぜひ時間を見て訪れてほしいものであります。ゴルフ場、溪流つりなども楽しめます。学会翌日は、医療機器メーカーへの案内など本学の近代的な面もご案内する予定です。

是非とも多くの会員の皆様に本学術大会にご来駕頂きますようご案内申し上げます。本学会は、栃木県、壬生町、県並びに郡市医師会をはじめ多くの方々、そして稲葉憲之学長はじめ本学教職員の絶大な支援の下に開催されるものでありまして、この場をお借りしまして深甚の感謝を表するものであります。

第112回日本医史学総会及び学術大会参加記

中野 正人

壬生町立歴史民俗資料館

来年113回壬生大会を準備するという理由から、参加記執筆を依頼された。今大会は、東京大会ということで順天堂大学本郷キャンパスで、6月11日(土)、12日(日)の二日間の日程だった。東日本大震災の自粛ムードで開催も危ぶまれたそうであるが、その影響もなく、全国各地からの参加者を得て熱心な討議がかわされ、有意義な二日間だった。

大会は、名誉会長木南英紀、会長坂井建雄、実行委員長月澤美代子、実行委員丸井英二・渡部幹

夫・大石杉乃・西巻明彦・小川景子・樋野恵子・澤井直・田中誠二各氏によって運営された。後援は、順天堂大学・東京都医師会・東京都歯科医師会の3団体との発表であった。

会場となった有山記念館講堂は、大会会場としては300名ほど収容できるホールであり、両日とも第1会場・第2会場とも満席に近い盛況だった。

大会初日に行われた講演は、シンポジウム「我が国の医学教育の歴史をめぐって」に即して

会長講演及び特別講演は「医学教育」をテーマとしたものであった。坂井建雄氏は「我が国の近代医学教育の源流—明治初期の公立学校—」と題して、全国に残る詳細なデータから明治10年代に公立医学校が各地に相次いで設立された背景には、明治初期において医師の多数を育成するとともに、西洋医学を地域に普及し定着させるという結論付けた研究の要諦を話された。筆者も、少なからず明治初年の公立学校については興味を持っていた。なぜなら栃木県でも明治7年、県立栃木病院が設立され、明治9年に栃木病院付属医学所という形で医学教育機関が誕生していた。明治11年、これが栃木医学校と改称され、栃木病院をその付属病院とした。ところが、惜しいことに明治15年3月、火災により消失してしまったのである。再建を望んだが同年6月の栃木県会の決議により「医学校は実業教育であり、各人の将来の職業のため県費を支出するには及ばない」との理由により、付属病院を残して明治16年に廃校になってしまった。わずか8年余りの医学教育機関であったが、大会会場でもある壬生からも数人の医学校生を輩出しているからである。

また天野郁夫氏の特別講演は「大学令と大正昭和期の医師養成」と題して、大正7年の大学令公布により、医学専門学校の医科大学への昇格問題を具体化した大学昇格に焦点をあわせ、戦前期における医師養成と医育機関との関係を分析した意義深いものであった。

口演については、拝聴できたものを中心に、抄録号からの紹介もあわせ報告する。短時間での聴講で、理解不足や誤認もあるかもしれないが、ご寛容の程をお願いしたい。第13席の鈴木則子氏は文化5年に出版された『婚姻男子訓』の中に登場する「癩」から、家筋と婚姻差別に関する記述について考察した。第18席の殿崎正明氏他4氏は、長谷川泰の済生学舎廃舎宣言について、藩閥政治的権力によるものと、もはや泰一人の個人的な学校ではなく社会的存在であることを認識でき

ていなかった点であるという真実を追究。第19席の唐沢信安氏他4氏は済生学舎廃舎後の長谷川泰について、泰が残した膨大な書簡や詩文からその後の動向を考究している。第23席の渡辺浩二氏は、漢方の大家として知られる浅田宗伯の門人を、現在残る門人帳から紹介している。当町からも幕末維新にかけて、古川精一・神戸察^{かんべさとし}の二人が入門している。ともに壬生藩に仕える医家。補足になるが、神戸察については渡辺氏の調査からは漏れているため新たな情報としておく。第49席の鈴木紀子氏は、1877年2月に勃発した西南戦争による戦死者は、政府軍と薩摩軍を合わせると1万2000人とあるが、その治療と看護に当たっては看護人だけでは到底看護は行えず、早急な人員確保対策として「看護夫」を新たに採用したことを報告。筆者も、壬生において慶応4年4月24日、戊辰戦役(安塚の戦い)のおり、銃創看病人として「女性の看護人」を採用した記録を見いだした。この記録は横浜軍陣病院の採用より1ヶ月早い事例となった。詳細は、次回の壬生大会で報告したい。第57席は酒井シヅ氏、ヴォルフガング・ミヒェル氏は日本最初のベルリン大学医学部卒業生の佐藤進について、留学中の進が岳父尚中に宛てた書簡からベルリン滞在中の生活について報告した。また、第59席の酒井シヅ氏他2氏は、ポンペのオランダ語解剖講義ノートと、その原典と考えられるボックの生理学と外科解剖学とを関連づけた人体解剖書とそれを簡略にした人体解剖必携の内容を比較検討している。

講演、口演、懇親会等、充実した大会であった。役員、月澤美代子実行委員長をはじめ会員各位の多大なご苦勞の賜と改めて深甚の謝意を表したい。大いに学びつつ、来年度大会をよりよいものにするため、準備をすすめている。関東諸藩で最初の解剖を行い、我が国女性看護人発祥の地「壬生」へ、多くの会員の皆様がお出でいただきたいものである。

第112回日本医史学会総会

去る平成23年6月10日(金)に理事・評議員会, 11日(土)には総会が順天堂大学で開催されました。下記の報告が承認され, 協議事項は可決されました。

1. 報告事項(平成23年3月31日現在)

(1) 平成22年度庶務報告

1. 会員の動静

入会者 48名

退会者 137名

死亡会員 16名	有田浩和(22年8月24日)	飯田雅教(22年9月19日)
	浦田辰雄(22年11月11日)	大滝紀雄(22年9月25日)
	岡田安弘(23年3月1日)	奥村 武(22年5月14日)
	芝 哲夫(22年9月28日)	杉山次子(22年10月26日)
	谷村 孝(22年10月13日)	土屋重朗(22年1月24日)
	豊永左近(22年6月6日)	日戸平太(22年3月12日)
	藤原 豪(22年9月3日)	前田建生(22年8月18日)
	松下正巳(22年7月21日)	本吉正晴(22年8月8日)

都合退会 43名

連絡不明者 78名

現在会員数 822名 正会員 814名(うち学生会員 30名, 海外会員 38名)
 名誉会員 5名
 賛助会員 3名

2. 受賞

平成22年5月14日 医科器械史研究賞 月澤美代子

平成22年5月16日 吉岡弥生賞 酒井シヅ

平成22年6月11日 第16回日本医史学会学術奨励賞

田中誠二・杉田 聡・安藤敬子・丸井英二

平成22年11月3日 紫綬褒章 東野治之

(2) 平成22年度事業報告

1. 日本医史学雑誌 第56巻第2・3・4号, 第57巻第1号 発行

2. 第111回日本医史学会総会 平成22年6月12日(土)~13日(日)

会長 真柳 誠 於・茨城大学水戸キャンパス(水戸市)

第2回日中韓医史学会合同シンポジウム 平成22年6月11日(金)

会長 真柳 誠 於・茨城大学水戸キャンパス(水戸市)

3. 日本医史学会例会 8回開催

9月は神奈川地方会と合同開催, 12月は日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と5学会合同開催

(3) 平成22年度共催・協賛事業報告

1. 先哲医家名墓・医史跡周覧会【共催】 平成22年11月3日(水)
2. 第28回日本医学会総会医学教育史展【協力】
於・国立科学博分館 平成23年2月11日(金)～4月10日(日)
3. 桐山正哲顕彰記念碑建立会【協賛】 記念碑：平成22年7月10日(土)
4. 尾台榕堂没後140年記念事業【協賛(継続)】 記念碑：平成23年10月29日(土)
5. 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂 平成22年11月23日(火)
6. 小野蘭山没後200年記念事業【協賛】 於・京都府立植物園 平成22年11月23日(火)
7. 第18回医療文化史サロン展【後援】 於・護王会館 平成22年11月1日(月)～3日(水)
8. 日本薬史学会2010年会【後援】 於・東京理科大学 平成22年11月13日(土)

(4) 第23回矢数医史学賞選考委員会報告

郭 秀梅 編「岡西為人著 宋以前医籍考 上・下」(学苑出版社) 2010年4月出版

(5) 第17回日本医史学会学術奨励賞選考委員会報告

勝井恵子 著「橋田邦彦における「医」の三要素」(日本医史学雑誌第56巻第4号掲載)

(6) 日本医史学会支部・研究会報告(資料A)**(7) 法人化に関する件(資料B)****(8) その他****2. 協議事項****第1号議案 平成22年度決算報告に関する件(資料1-3)****第2号議案 平成23年度事業計画案に関する件**

1. 第112回日本医史学会総会 会長 坂井建雄
於・順天堂大学本郷キャンパス(文京区) 平成23年6月11日(土)～12日(日)
2. 日本医史学会12月例会・懇親会【共催】
於・順天堂大学 平成23年12月10日(土)
日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と5学会合同開催
3. 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂 平成23年11月23日(水)
4. 杉山検校生誕400年記念事業【協賛】
杉山検校和一の生誕400年を期して行われる, 記念館(資料館)の設置, 記念誌などの刊行と記念切手発行の推進, 記念式典の開催と杉山検校賞の授与等の記念事業.
5. 高林謙三・桑田衡平兄弟の石碑を建てる会【協賛】 石碑：平成23年度(予定)
6. 吉益東洞顕彰会【後援】 於・広島大学 平成23年9月11日(日)
7. 第19回医療文化史サロン展【後援】
於・護王会館 平成23年11月1日(火)～3日(木)

第3号議案 平成23年度予算案に関する件(資料4)

第4号議案 第113回以降日本医史学会総会会長選出に関する件

第113回日本医史学会総会 会長 寺野 彰

於・獨協医科大学(下都賀郡壬生町) 平成24年6月16日(土)~17日(日)

第5号議案 日本医史学会ウェブサイトの現状と今後の課題(資料5)

1. 会則の更新
2. 会員による新刊書籍の案内
3. 文献目録(和文・欧文)

3. その他

資料1

平成22年度収支決算書

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

(収入の部)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 会費収入	8,300,000	7,448,637	△ 851,363	
2. 入会金	100,000	74,000	△ 26,000	
3. 雑誌売上	100,000	397,500	297,500	バックナンバー
4. 著者負担	100,000	99,000	△ 1,000	
5. 広告収入	150,000	115,000	△ 35,000	
6. 集会費	30,000	36,400	6,400	
7. 助成金	1,200,000	1,200,000	0	学術振興会 出版助成金
8. 寄付金	0	0	0	
9. 利息	2,000	256	△ 1,744	
10. 雑収入	50,000	24,260	△ 25,740	印税他
小 計	10,032,000	9,395,053	△ 636,947	
前年度繰越金	4,808,668	4,808,668	0	
合 計	14,840,668	14,203,721	△ 636,947	

資料2

平成22年度収支決算書

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 学会誌等刊行費	4,500,000	4,282,639	△ 217,361	
2. 名簿刊行費	0	0	0	
3. 事業費	3,000,000	1,258,624	△ 1,741,376	
4. 事務費	300,000	150,018	△ 149,982	
5. 印刷費	250,000	82,275	△ 167,725	
6. 備品費	0	39,830	39,830	
7. 通信費	300,000	266,050	△ 33,950	
8. 人件費	2,600,000	2,018,920	△ 581,080	
9. 交通費	650,000	929,280	279,280	
10. 渉外費	100,000	30,315	△ 69,685	
11. 会議費	100,000	57,031	△ 42,969	
12. 雑費	10,000	17,840	7,840	
13. 予備費	3,030,668	200,000	△ 2,830,668	弁護士への支払手数料
小 計	14,840,668	9,332,822	△ 5,507,846	
次年度繰越金	0	4,870,899	4,870,899	
合 計	14,840,668	14,203,721	△ 636,947	

資料3

資産（平成23年3月31日現在）

1. 一般会計	4,870,899	（現金 255,889 預金 4,615,000）
2. 特別会計	10,592,667	
3. 矢数医史学賞基金	5,018,956	
4. 斉藤脩基金※ ¹	1,564,922	※ ¹ 日本医史学会学術奨励賞基金
計	22,047,444	

内訳

特別会計

支 出		収 入	
		前年度より繰越金	10,591,293
		利息	1,374
次年度への繰越金	10,592,667	一般会計より	0
合 計	10,592,667	合 計	10,592,667

矢数医史学賞

支 出		収 入	
矢数賞賞金	0	前年度より繰越金	5,017,708
次年度への繰越金	5,018,956	利息	1,248
合 計	5,018,956	合 計	5,018,956

斉藤脩基金

支 出		収 入	
		前年度より繰越金	1,564,922
次年度への繰越金	1,564,922	利息	0
合 計	1,564,922	合 計	1,564,922

会則第18条第3項の規定に従い、平成22年度の財産の状況及び理事の業務執行の状況を監査した結果、収支計算書その他の書類は正確かつ妥当であることを認め、理事の業務執行に不整の点はないと認めます。

平成23年4月30日

監 事

石 原 力 

監 事

高 橋 文 

資料4

平成23年度予算(案)

自 平成23年4月1日
至 平成24年3月31日

支出の部	前年度(平22) 予算	本年度(平23) 予算	前年度の比較	備考	収入の部	前年度(平22) 予算	本年度(平23) 予算	前年度との比較	備考
1. 学会誌等刊行費	4,500,000	4,500,000	0		1. 会費収入	8,300,000	8,000,000	△ 300,000	
2. 名簿刊行費	0	0	0		2. 入会金	100,000	100,000	0	
3. 事業費	3,000,000	3,000,000	0		3. 雑誌売上	100,000	100,000	0	
4. 事務費	300,000	700,000	400,000	会計ソフト	4. 著者負担	100,000	100,000	0	
5. 印刷費	250,000	250,000	0		5. 広告収入	150,000	150,000	0	
6. 備品費	0	0	0		6. 集会費	30,000	30,000	0	
7. 通信費	300,000	300,000	0		7. 助成金	1,200,000	1,000,000	△ 200,000	學術振興会 出版助成金
8. 人件費	2,600,000	2,600,000	0	事務	8. 寄付金	0	0	0	
9. 交通費	650,000	850,000	200,000		9. 利息	2,000	2,000	0	
10. 渉外費	100,000	100,000	0		10. 雑収入	50,000	50,000	0	登録・委託
11. 会議費	100,000	100,000	0		11. 前年度繰越金	4,808,668	4,870,899	62,231	
12. 雑費	10,000	20,000	10,000						
13. 支払手数料	0	350,000	350,000						
14. 法定福利費	0	260,000	260,000						
15. 予備費	3,030,668	1,372,899	△ 1,657,769						
合 計	14,840,668	14,402,899	△ 437,769		合 計	14,840,668	14,402,899	△ 437,769	

資料 5



日本医史学会

JAPANESE SOCIETY FOR MEDICAL HISTORY



ENGLISH || JAPANESE

日本医史学会沿革	事務連絡・国内外の関連事項
日本医史学会の会則	月例会の案内
入会申し込みについて	總會および学術大会：6月11日・12日
日本医史学雑誌：目次（1997年～）	過去の学術大会
日本医史学雑誌：投稿規定	過去の月例会
日本医史学会の賞	リンク集
日本医史学：文献目録	書籍の案内
会員による新刊書籍	

日本医史学会
〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1、順天堂大学医学部医史学研究室内
TEL: (03) 5802-1052 TEL/FAX: (03) 3813-1592
jsmh@juntendo.ac.jp

NIHON ISHIGAKU ZASSHI, Current Issue:






advanced search

SEARCH JSMH WEBSITE


site search by freefind

063744



NIHON ISHIGAKKAI

JAPANESE SOCIETY FOR MEDICAL HISTORY






ENGLISH || JAPANESE

History of the JSMH	Billboard
Articles of Association	Monthly Meetings
Membership	Annual Congress: 11-12 June 2011
Journal of the JSMH: Index of Articles (1997-)	Links
Submissions of Manuscripts	Previous Congresses
Awards granted by the JSMH	Mailinglist (members only)
History of Medicine in Japan: Publications in Western Languages	New books
Recent books by JSMH members	

JAPANESE SOCIETY FOR MEDICAL HISTORY
c/o Department of Medical History, Juntendo University, School of Medicine
2-1-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan 113-8421
TEL: 03-5802 1052 || jsmh@juntendo.ac.jp || TEL/FAX: 03-3813 1592

NIHON ISHIGAKU ZASSHI, Current Issue:

advanced search

SEARCH JSMH WEBSITE

site search by freefind

063745

Search sponsors[add search to your site](#)

[Webmasters - Add a search engine to your site](#) Advanced search and navigation technology can be added to your web site in minutes. Get high speed, high availability, hosted search tec... (*freefind.com*)

[Build traffic to your website](#) It's free and easy and you can do it now. (*changedetection.com*)

[Search for "V" on Findia.net](#) Quickly find what you are looking for using the Findia.net search engine. (*findia.net*)

Search Results powered by FreeFind.com

Found 4 items, now showing 1 - 4

[index](#) [site map](#) [search tips](#) [advanced search](#)

<< Prev | Next >>

解剖

Search



New



Refine



Web

1. Journal of the JAPANESE SOCIETY FOR MEDICAL HISTORY (『日本医史学雑誌』)

中国文人体解剖学書について 『日 ... 酒井シヅ 「大坂の蘭学 解剖を中心に (抄)」 『日本医 ... 橋正純訳 『紙塑人体解剖譜』と大江伊兵衛の
plaza.umin.ac.jp/~jsmh/journal_j.html

2. JAPAN SOCIETY OF MEDICAL HISTORY

Anatomeで用いられた神経解剖学的な観察 ... 門田 永治 60. 『解剖学表』 (『解体新書』の原 ... 柳澤 波香 10. 『解剖学表』 (『解体新書』の原
plaza.umin.ac.jp/~jsmh/past/congresses_past.html

3. Japanese Medical History - Bibliography

中心とする解剖書誌』米山千代 ... 医学』、1946年。森於菟 『解剖刀を執りて』、1946年 ... 1956年。森於菟 『日本解剖学変遷史』、1956年。内
plaza.umin.ac.jp/~jsmh/literature/japanesesources.html

4. JAPANESE SOCIETY FOR MEDICAL HISTORY

中国文人体解剖学書について ... 美代子 「ガレノス 『神経の解剖について』ギリシャ語原 ... 8回 石田純郎 「『解体新書』のオランダ人
plaza.umin.ac.jp/~jsmh/awards_recipients_shoreisho.html

<< Prev | Next >>

解剖

Search



New



Refine



Web

[index](#) [site map](#) [search tips](#) [advanced search](#)

Site search technology by FreeFind.com

Webmasters: [get your own site search engine](#)

『日本医史学雑誌』(1997年～)

Japanese || English

1979以前の論文につき『日本医史学雑誌〈索引〉』(思文閣出版、1980年)を参照

区分	論文	著者	頁
2010年	第56巻第4号		
原著	橋田邦彦における「医」の三要素	勝井恵子	473
原著	下関開業時代における岡研介の事績及び寄寓背景に関する考察 — 本州西端の海港に見る文政末蘭学医の展開 —	亀田一邦	485
原著	波江抽斎著『靈樞講義』所引「古抄本」について	永塚憲治	501
原著	『千金方』傷寒門所引の華佗方にみられる原始的な傷寒の治方	遠藤次郎, 鈴木達彦	513
研究ノート	橋田邦彦研究 — ある「葬られた思想家」の生涯と思想 —	勝井恵子	527-000
例会抄録	『断毒論』と『国字断毒論』, 『翻訳断毒論』の比較 — 漢方医学の立場から —	西巻明彦	549-000
2010年	第56巻第2号		
	第111回 日本医史学会総会 演題目次		
会長講演	日韓越の医学と中国医書	真柳誠	151-159
特別講演	水戸藩の医学と医療	鈴木暎一	160-162
一般演題	「日露戦争期の広島予備病院における活動 — 日赤看護班の看護活動を中心として」	岡本裕子, 坂村八恵, 隅田寛, 千田武志	163
一般演題	「明治期の医師 — 近藤常次郎による看護管理体制の示唆」	上坂良子	164
一般演題	「日本赤十字社における支部選出看護婦 — 京都支部選出看護婦 高木ハルの事例をもとに」	川原由佳里, 鷹野朋美, 山崎裕二, 殿城友紀, 高橋朋子, 川嶋みどり	165
一般演題	「明治24年濃尾地震における東京慈恵医院の救護・看護活動」	平尾真智子, 芳賀佐和子, 梶名織子	166

NEW BOOKS・新刊の案内

新刊の案内

- ・ 2011年
- ・ Akitomo Matsuki: Seishu Hanaoka and His Medicine - A Japanese Pioneer of Anesthesia and Surgery. Hirosaki University Press. ISBN 978-4-902774-68-9 (松木明知 著, B5変型判・200頁)
- ・
- ・ 2010年
- ・ 松木明知 『蘭医佐々木元俊その生涯と業績』津軽書房、2010年9月(3150円)
- ・ 小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会『小野蘭山』八坂書房、2010年6月(12,600円)
- ・ Wolfgang Michel: Der Ost-Indischen und angrenzenden Königreiche vornehmste Seltenheiten betreffende kurze Erläuterung – Neue Funde zum Leben und Werk des Leipziger Chirurgen und Handelsmanns Caspar Schamberger (1623-1706). Kyushu University, The Faculty of Languages and Cultures Library, No 1. Fukuoka: Hana-Shoin, March 2010, 234 pp. (ISBN 978-4-903554-71-6)
- ・
- ・ 2008年
- ・ 坂井建雄『人体観の歴史』岩波書店、2008年9月(7,770円)
- ・ 石田眞『ニンギョ様を祀る 秋田県大館市に見る人形道祖神を中心に』、東京：亮文社、2008年
- ・ 中村光夫『東京の痘瘡神』、2008年
- ・ 中村光夫『埼玉の痘瘡神』、2008年
- ・ 中村光夫『山梨の痘瘡神』、2008年
- ・ 中村光夫『中村教材資料文庫所蔵「痘瘡」資料文献目録』、2008年
- ・ 坂井建雄『人体観の歴史』、東京：岩波書店、2008年(参考文献: p. 331-351; 年表: 巻末p. 8-11)
- ・ 内藤記念くすり博物館『薬物名出典総索引・続編』、川島町(岐阜県): 内藤記念くすり博物館、2008年
- ・ 島根大学附属図書館医学分館大森文庫出版編集委員会『華岡流医術の世界: 華岡青洲とその門人たちの軌跡』、出雲: ワン・ライン、2008年
- ・ 乾隆明『松江藩の時代』、松江: 山陰中央新報社、2008(松江藩関連年表: p208-215; 参考文献あり)
- ・ ヴォルフガング・ミヒェル『史料と人物 I』中津市歴史民俗資料館分館 医家史料館叢書、中津市教育委員会、2008年
- ・
- ・ 2007年
- ・ Masayoshi Sakakibara, Nobuaki Shigeoka: Die Begegnung mit der deutschen Sprache. Tokyo, Dogakusha, 2007
- ・ 京都大学医学部病理学教室百年史刊行会『京都大学医学部病理学教室百年史』京都: 京都大学医学部病理学教室

書評

- ・ 新村拓著『日本医療史』(瀧澤利行) 日本医史学雑誌、第55巻117頁
- ・ 片桐一男著『それでも江戸は鎖国だったのかーオランダ宿 日本橋長崎屋一』(中西淳朗) 日本医史学雑誌、第55巻118頁
- ・ 『杏雨書屋所蔵 医家肖像集』通覧抄(田中祐尾) 日本医史学雑誌、第55巻390頁
- ・ カール・ヴィーニンゲル著、植木絢子訳『知られざる科学者ベッテンコーフェルー環境医学の創始者一』(青木国雄) 日本医史学雑誌、第55巻392頁
- ・ 杉田米行編『日米の医療一制度と倫理一』(渡部幹夫) 日本医史学雑誌、第55巻395頁
- ・ 篠田達明著『戦国武将の死生観』(杉浦守邦) 日本医史学雑誌、第55巻397頁
- ・ 吉元昭治著『日本全国神話・伝説の旅』(高山真一郎) 日本医史学雑誌、第55巻398頁
- ・ 安室芳樹著『切手で綴る医学の歴史』(山之内外一) 日本医史学雑誌、第55巻399頁
- ・ 兵頭晶子著『精神病の日本近代一憑く心身から病む心身へ一』(梶田源四郎) 日本医史学雑誌、第55巻400頁
- ・ 瀧上燕子著『バイオ・コリアと女性の身体一ヒトクローンES細胞研究「卵子提供」の内幕』(杉山章子) 日本医史学雑誌、第55巻402頁
- ・ 宮入慶之助記念誌編纂委員会編『住血吸虫症と宮入慶之助一マイリガイ発見から90年一』(Alexander Bay) 日本医史学雑誌、第55巻537頁
- ・ 小泉和子編著『家で病気を治した時代一昭和の家庭看護一』(平尾真智子) 日本医史学雑誌、第55巻539頁
- ・ 岩間眞知子著『茶の医薬史一中国と日本一』(鈴木達彦) 日本医史学雑誌、第55巻540頁

日本医史学会・月例会の案内

Japanese || English

日本医史学会では毎月第4土曜日（12月は第2土曜日）に、順天堂大学におきまして午後2時より例会を開催しております。演者は会員であることが必要ですが、聴講者に制限はありません。興味のある方は誰でも参加できます。発表希望者は学会事務局に連絡して下さい。



平成23年 2011	演者・演題	備考
5月28日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平尾真知子「光明皇后の施薬院・悲田院と施浴伝説—看護史の視点からの考察」 ■ 町 泉寿郎・天野陽介「宇津木昆台と『日本医譜』編纂に関する新発見」 	順天堂大学 9号館2階8番教室 14:00-
6月11日・12日	第112回総会・学術大会	
	7月は夏休み	
	8月は夏休み	
9月	9月は神奈川県地方会秋季会と合同	
10月22日(土)	■	
11月26日(土)	■ 橋本 明「(未定)」	
12月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【日本医史学会】深瀬泰且「お玉ヶ池種痘所あれこれ」 ■ 【日本薬史学会】 ■ 【日本獣医史学会】 ■ 【日本看護歴史学会】 ■ 【日本歯科医史学会】 	12月は5学会合同 (日本医史学会・日本 歯科医史学会・日本 薬史学会・日本獣 医史学会・日本看護 歴史学会)

過去の月例会

top ▲

Home

▲ top

History of Medicine in Japan: Publications in Western Languages

Western Sources || Japanese Sources

Recommended Additions:

- Bibliography of Japanese-Netherlands medical relations by Dutch authors. In: *Nieuwe Nederlandse bijdragen tot de geschiedenis der geneeskunde en der natuurwetenschappen* No. 36 (1991), pp.105-14.
- S. Miyashita: A bibliography of the Dutch medical books translated into Japanese. In: *Archives internationales d'histoire des sciences* (Paris). 1975 June 25, (96): pp. 8-72.

Abbreviations:

- **EASTM**: East Asian Science, Technology, and Medicine
- **JJSMH**: Journal of the Japan Society of Medical History (Nihon Ishigaku Zasshi)

Last update: 6 April 2011

Any information on missing titles will be greatly appreciated.

Email Form

2011

- Akitomo Matsuki: Seishu Hanaoka and His Medicine - A Japanese Pioneer of Anesthesia and Surgery. Hirosaki University Press. (B5, 200pp, ISBN 978-4-902774-68-9

2010

- Warren W. Boling, Svenja Ettl, Keiji Sano: Professor Uchimura, Ammon's Horn Sclerosis, and the German Influence on Japanese Neuroscience. *Journal of the History of the Neurosciences*, Vol. 19 (2010), pp.182-194. [full text]
- Pierre-Yves Donzé: Studies Abroad by Japanese Doctors: A Prosopographic Analysis of the Nameless Practitioners, 1862-1912. *Social History of Medicine*, Vol. 23 (2010), Issue 2, pp. 244-260.
- Alexander Kast: Johannes Ludwig Janson, professor of veterinary medicine in Tokyo in 1880-1902 - contribution to German-Japanese Medical Relations - Part IV. *Acta Med Hist Adriat*. Vol. 8(1):109-18, 2010.
- M. Kitajima / Y. Hiki: Langenbeck's Archives - an international communication forum between Japanese and German surgeons. In: *Langenbeck's Archives of Surgery*, 2010 March 26.
- Antonie M. Luyendijk-Elshout: Some Highlights of the Transfer of Dutch Medical Learning to Japan until 1870. *Sartonia*, Vol. 2 (2010), 119-132. [full text]
- T. Mazda / P.J. Schmidt: From bloodletting to apheresis in Japan. *Transfusion and Apheresis Science*, Vol. 42: pp. 27-31, 2010.

(中略)

1873

- Dr. Doenitz: Abortion among the Japanese. In: *Mitteilungen der deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens*, 1873.
- Hoffmann: Die Heilkunde in Japan und japanische Ärzte. In: *Mitteilungen der deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens*, Heft I, 1, 1873, pp. 23-25. Heft I, 4, 1873, 9-23.

1859

- Pompe van Meerdervoort: Verslag v. d. geneeskundige dienst of het eiland Deshima en Japan, 1858-59. On the Study of Natural Sciences in Japan. In: *Journal Northern China Branch Royal Asiatic Society*, No. 11, May, 1859.

(資料A)

平成22年度支部・研究会報告

北海道医史学研究会 事業報告

北海道医史学研究会幹事会

日時：平成22年4月23日

場所：北海道医師会館

議題及び承認事項

(1) 合同学術集会について

北海道医史学研究会が当番幹事、10月2日午後3時から開催

平成22年度北海道医史学研究会 総会

日時：平成22年10月2日

場所：北海道医師会館

第5回医史・薬史合同学術集会

日時：平成22年10月2日

場所：北海道医師会館

〈プログラム〉

開会挨拶 (15:00~15:10)

北海道医史学研究会長 長瀬 清

日本薬史学会北海道支部長 斎藤元護

特別講演 (15:10~16:10) 座長 島田保久 (北海道医史学研究会代表幹事)

「アイヌの生薬など—江戸時代の文献を中心に—」

講師 佐々木利和 (北海道大学 アイヌ・先住民研究センター教授)

一般演題Ⅰ (16:20~16:50) 座長 横田一郎 (北海道医史学研究会)

1. 眼目秘録について (第3報) 竹田 眞 (竹田眼科)

2. 「北征日乗」にみる北越殖民社の医師達

菊田道彦 (北海道医史学研究会)・島田保久 (元町整形外科)

3. 関場不二彦著『西医学東漸史話』について (第8報)

秦 温信・松岡伸一・佐野文男 (札幌社会保険総合病院)

島田保久 (元町整形外科)・鮫島夏樹 (旭川医科大)

一般演題Ⅱ (17:00~17:30) 座長 関川 彬 (北海道医療大学薬学部)

1. 後志の薬史 (2) 倶知安町における薬品原料の栽培

小松健一 (北海道薬科大学)・木村充博 (木村回生堂薬局)・吉沢逸雄 (日本薬史学会)

2. 『小樽市小学校薬品準方』発見と概要 吉沢逸雄 (日本薬史学会)

3. 新聞にみる明治期北海道の売薬広告 (Ⅲ) 明治35-45年の売薬広告

本間克明 (株式会社ファーマホールディング)

閉会挨拶 (17:30~)

日本薬史学会北海道支部 幹事 古川 薫

島田保久 (北海道医史学研究会代表幹事)

新潟支部 報告

今年度は支部としての例会，研究発表は行われなかった。支部事務局の所在は従来どおり，日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。

平成22年度(2010年)中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

1. 学会・研究会などでの発表

- | | |
|---|-------|
| ①第111回日本医史学会総会(6月12-13日 水戸市・茨城大学) | |
| 日本における舌診思想の一考察(その1) | 西巻明彦 |
| 『百科全書医学篇』(明治7年文部省刊)とChambersの原本(1857年)について | 樋口輝雄 |
| ②第38回日本歯科医史学会総会(10月2日 千代田区・日本歯科大学生命歯学部) | |
| 〈会長講演〉日本の風土性にみる身体観 一ある一断面の考察一 | 西巻明彦 |
| 第1回歯科医師国家試験と歯科医師免許証 | 樋口輝雄 |
| 麻布長谷寺の伊澤道盛・信平の墓 | 樋口輝雄 |
| 東京女子歯科医学講習所の開設時期について | |
| 一東京都公文書館所蔵の開学願書を基に一 | 樋口輝雄 |
| ③第51回日本哺乳動物卵子学会(5月30日 新潟市・朱鷺メッセ) | |
| 〈教育講演〉オギノ式受胎調節法の発見者 荻野久作先生について | 蒲原 宏 |
| ④新潟大学医学部創立100周年記念特別講演(6月26日 新潟市・新潟県民会館) | |
| 県立新潟医学校一官立医学専門学校一新潟医科大学 | 蒲原 宏 |
| ⑤新潟城文学会(9月26日 新潟市) | |
| 正岡子規の病と新潟県の子規山脈 | 蒲原 宏 |
| ⑥新潟大学医学部第100回解剖体祭(10月8日 新潟市・泉性寺) | |
| 新潟県の人体解剖のあゆみ | 蒲原 宏 |
| ⑦新潟日報社文化講演会(11月6日 新潟市・国際情報大学) | |
| 越佐医学文化人の記憶 | 蒲原 宏 |
| ⑧新潟大学医学部外科学教室創立100周年記念祝賀会(12月4日 新潟市・クラウンプラザホテル) | |
| 新潟県下の外科発達小史 | 蒲原 宏 |
| ⑨見附市歴史講座「村松藩と見附の歴史」(10月10日 見附市・中央公民館) | |
| 見附の学問と文化 一蘭学・医学史を中心に一 | 長谷川一夫 |
| ⑩第47回日本細菌学会中部支部総会(10月23日 新潟市・日本歯科大学新潟生命歯学部) | |
| 〈特別講演〉温故知新一北里柴三郎とその時代 | 西巻明彦 |

2. 著作ならびに論文等

- | | |
|---|------|
| 県医師会館あたりの今昔一海軍人事部・CIE図書館・県医師会館，新潟市医師会報5月号 | 蒲原 宏 |
| 書評：藤倉一郎著『人類は地球の癌』一心臓血管外科医の警告，新潟市医師会報2月号 | 蒲原 宏 |
| 書評：平澤興著『巨人探求』一8人の基礎医学者の評伝，新潟市医師会報7月号 | 蒲原 宏 |
| 整形外科の歴史(151) アメリカ整形外科の近代化 | 蒲原 宏 |
| 整形外科の歴史(152) アメリカ整形外科と第1次世界大戦 | 蒲原 宏 |
| 整形外科の歴史(153) アメリカ整形外科のバイオニアたち | 蒲原 宏 |

整形外科の歴史 (154)~(159) リドロンの門下生 (1)~(7)

蒲原 宏

整形外科の歴史 (160)~(162) ボストン学派の興隆 (1)~(3)

蒲原 宏

“整形外科の歴史”は『整形外科看護』15巻1号~12号(2010年1~12月)に連載

The qualifying exam for general practitioners and the physicians' registry in the early Meiji period,

Japanese Dental Science Review Vol. 46 No. 1

樋口輝雄

3. 特記すべき事項について

西巻明彦本学会理事は10月2日に日本歯科大学生命歯学部(東京都千代田区)で開催された第38回日本歯科医史学会総会・学術大会を主宰し、大会長を務めた。

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館内

電話 025-267-1500 FAX 025-267-1134

日本医史学会新潟支部(樋口輝雄)

北陸医史学会 会務報告

1. 総会・例会報告

第32回総会・例会を以下の通り開催しました。

日時:平成22年7月11日(日)

会場:金沢大学医学部記念館(金沢市)

午前10時定刻開会一午後4時閉会

(1) 会長あいさつ

(2) 会員研究発表演題

①富山藩政期資料『吉川随筆』を記録した吉川家の系譜について

正橋剛二

②スロイス薬剤学 生物由来の薬剤とその有効成分

板垣英治

③小野慈善院と医学教育の関連について

寺畑喜朔

④加賀藩種痘所の変遷

赤祖父一知

⑤民間医療における「かっぱ」

17世紀初頭に渡来したと考えられる本邦第三の「かっぱ」のもたらした医学史上の諸問題

飛見立郎

⑥「戦時体制」と「官立金沢医科大学」—その三 戦争末期の教授会記録から

筋 昭三

⑦Mr. キンストレーキの脳における解剖学名挿入の試み

篠原治道

(3) 総会議事

①平成21年度活動報告

②平成21年度決算報告

③平成22年度予算案上提

上記は全て理事者側報告、上提案通りで可決されました。

このあと正橋会長から今期をもって会長職から退きたい旨の意志表示があり承認され、次期会長に赤祖父一知石川県幹事が選任された。

2. 幹事会報告

日時：平成23年2月27日(日)

場所：ホテル金沢(金沢市)

- (1) 第33回総会・例会は富山県の担当で7月10日(日)高岡市で開催の予定。
- (2) 会長の交代により事務局を以下におくことになった。

〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学1-1

金沢医科大学第2解剖学教室(主任篠原治道教授)内

神奈川地方会 活動報告

平成22年度・日本医史学会神奈川地方会秋季第36回例会と東京大会合同

日時：平成22年9月11日(土)

会場：鶴見大学歯学部3号館2階301-1

出席者：約50名

(1) 総会：滝上正会長より挨拶があり、会計担当の坂本より会計報告。

(2) 一般学術演題

海上医学研究の歴史と展望

庄田昌隆・山中功一

はしかの終りはちかいだろうか

佐分利保雄

(3) 特別講演

島尾忠雄先生(日本結核予防会顧問)

「結核の治療の歴史」

(4) 教育講演

福所秋雄先生(日本獣医生命科学大学教授)

「口蹄疫等の海外悪性伝染病撲滅の歴史」

平成22年度・日本医史学会神奈川地方会春季第37回例会

日時：平成23年3月12日(土)

会場：鶴見大学歯学部3号館2階301-1

出席者：約20名(東北関東大震災で交通事情が悪化したため少なかった。)

(1) 総会：本地方会は高齢化と会員の減少があり、その対策を検討。

(2) 一般学術演題

日本船籍船員のマラリアの歴史

庄田昌隆, 山中功一, 滝上 正

教材としての「三角縋帯図附」の意義を探る

鈴木紀子

P. Rous ラウス肉腫ウィルスの発見

佐分利保雄

(3) 特別(会長)講演

滝上正先生(神奈川地方会会長)

「マルチン・ルターの病歴 一多病に耐えての宗教改革一」

(4) 特別講演

島尾忠雄先生(日本結核予防会顧問)

「結核の予防と疫学」

東海支部 報告

活動報告

1. 下記講演会の後援活動を行った。

『伊藤圭介日記』(第16集)出版記念会 一洋学史学会11月例会共催一

平成22年11月21日 午後1時~4時30分(於名古屋市東山植物園植物会館研修室)

【記念講演】

尾張・美濃の本草博物学と小野蘭山	遠藤正治
小野蘭山の肖像(谷文晁・筆)につけた蘭山の賛について	幸田正孝
「圭介腊葉帖」から切り取られた標本(1)	加藤僖重
伊藤圭介の後継者としての伊藤篤太郎	岩津都希雄
西山家相続と伊藤圭介	杉村啓治
『吾妻日記』翻刻と解説(2)	平野 恵
賀来飛霞と小石川植物園(2)	坂崎信之

(山内一信・高橋 昭)

関西支部 活動報告

▽日本医史学会関西支部2010年秋季大会(22年度春季は開催なし)

平成22年11月7日(日) 於・京都市国際交流会館(KOKOKA) 共催:京都医学史研究会

〈一般演題〉

- (1) ベルツ博士の九州歴訪:山上勝久(泉南市)
- (2) ヨーガ成立に導引は関係あったか(初探):猪飼祥夫(大津市)
- (3) レンブラントの「トゥルプの解剖学講義」(絵葉書):寺畑喜朔(高岡市)
- (4) エリザベスI世の侍医ロペスの栄達と悲運:柳澤波香(東京都)
- (5) 江戸期博物図譜(虫豸図譜・菌類図譜)と医師達:奥沢康正(京都市)
- (6) 緒方洪庵の日記を読む 一除痘館研究の側面から一:古西義麿(堺市)
- (7) 緒方洪庵生誕二百年:小田皓二(井原市)
- (8) 大坂堂島の医家,杉本一斎の輪郭について:浅井允晶(奈良市)
- (9) 適塾門下生「国府彰哉と横山謙斎」:木村 丹(岡山県早島町)
- (10) 英国医史一寄附:栗本宗治(西宮市)
- (11) イベイ 人身究理の川本幸民訳稿:八耳俊文(東京都)
- (12) 南蛮流外科の諸問題について:ヴォルフガング・ミヒェル(福岡市)
- (13) 『新纂看護婦学』(大正4年刊)にみる医師長尾昶斎の看護観:平尾真智子(国分寺市)
- (14) 大関和の看護観 一精神・言行・学技一:○上坂良子(秦野市),水田真由美(和歌山市)
- (15) 上中啓三(高峰讓吉の助手)のアドレナリン実験ノート:中山 沃(西宮市)
- (16) 徳川綱吉の麻疹と幕府の麻疹感染予防策について:鈴木則子(京都市)
- (17) 香川修庵と一本堂行余医言:杉浦守邦(大津市)
- (18) 最後の御目見医者中島友玄:中島洋一(岡山市)
- (19) 万病万毒論と橋本伯寿:西巻明彦(東京都)
- (20) 眼科における手術時消毒法の変遷:園田真也(枕崎市)

〈特別講演〉

(1) 在村医家の形成と儒教：大阪府立大学 人間社会学部 教授 山中浩之

〈展示〉

(1) 博物図譜（一般演題5に関わる）：奥沢康正

(2) 上中啓三実験ノート（一般演題15に関わる）：中山 沃

〈紙上発表〉

(1) 三田谷啓資料による児童の健康問題と社会的養護：小野尚香（豊中市）

(2) 田中彌性園収蔵 古医書のうち稀本（4）：田中祐尾（八尾市）

以上全口演の抄録は機関誌『醫譚』93号に収載します。（平成23年5月発行予定）

* 2011年度秋季大会 平成23年11月13日（日） 於・大阪市立大学医学部学舎

▽支部機関誌『醫譚』91号 平成22年5月20日発行

支部機関誌『醫譚』92号 平成22年11月30日発行

上述機関誌の収載目次は関西支部アドレス（下記）をお開き下さい。

〒581-0003 大阪府八尾市本町5-1-7 田中医院内

日本医史学会関西支部事務局（田中祐尾）

☎：072-922-2028 FAX：072-993-1237 HP：<http://mhkansai.umin.ne.jp/>

京都医学史研究会 活動報告

▽機関紙『啓迪』第28号発刊

八代将軍吉宗の脳卒中とそのリハビリ

杉浦守邦

近江婦人慈善会蒲生支会の看病婦養成（4）

八木聖弥

冬虫夏草の文献史料（その1）

奥沢康正

『京都医事衛生誌』に紹介された「神農講」関連史料について

小林昌代

▽第227回例会 平成22年10月28日 於・京都府医師会館（京都府医師会と共催）

講演「くすしならぬ身が『病草紙』を読み解くと ～文化庁本『不眠症の女』をめぐる～」

鎌倉早見美容芸術専門学校講師 中世絵巻物研究者 葉山美知子先生

▽第228回例会 平成22年11月12日 於・京大会館（日本医史学会関西支部秋季大会と共催）

会員発表

「江戸期博物図譜（虫豸図譜・菌類図譜）と医師たち」

奥沢康正

「香川修庵と一本堂行余医言」

杉浦守邦

▽第229回例会 平成23年3月10日 於・京都府医師会館（京都府医師会と共催）

講演「安藤精軒と施薬院」

京都府立医科大学 人文・社会科学教室 准教授 八木聖弥先生

▽第18回医療文化史サロン展「古典の日に医心方と源氏物語」

平成22年11月1日～11月3日 於・護王会館

主催 医療文化史サロン協賛会／後援 京都医学史研究会 他

▽その他 平成23年3月6日

府医師会を代表して京都医学史研究会有志が「盟親」の山脇東洋観臓記念碑に献花(建碑から35周年)、ついで誓願寺墓地内山脇東洋夫妻の墓・山脇社中解剖供養碑に供花した。

〒604-8585 京都市中京区西ノ京梅尾町3-14 京都府医師会館内
京都医学史研究会 会長 中橋彌光

広島支部 活動報告

日本医史学会広島支部学術集会

日時：平成23年1月8日(土)13時～

場所：広島大学医学部基礎・社会医学棟セミナー室2

日本医史学会広島支部総会

1. 開会の辞

2. 日本医史学会広島支部医学史研究発表会

座長 広島大学皮膚科学 教授 秀 道広

演題1. 日露戦争期の広島予備病院における患者を取り巻く環境

広島国際大学 坂村八恵, 岡本裕子, 隅田 寛, 千田武志

演題2. 葵上・紫式部の著した生霊

高陽ニュータウン病院 片岡勝子

演題3. 岡山県における保健所体制の変遷について(その3 精神保健福祉対策との関わり)

倉敷仁風ホスピタル 高木寛治

(コーヒーブレイク)

3. 特別講演会

座長 第30回日本医史学会広島支部総会・学術集会会長 河野修興

(1) 明治前期広島における近代医学教育の状況

広島国際大学 千田武志

(2) 「津山の洋学, 宇田川家・箕作家を中心として」

津山洋学資料館長 下山純正

4. 閉会の辞

日本医史学会福岡地方会 活動報告

平成22年度は当学会理事のミヒェル教授が九州大学を御停年退職のため、8月20日退職記念講演会を九州大学医学部百年講堂にて開催しました。

日本看護史学会と共催にて御講演終了後ミヒェル先生にもご挨拶頂き、花束贈呈を行い記念パーティを催しました。

その他定例の福岡県医師会雑誌福岡県医報に「郷土のほこり一福岡の先賢医師の業績」を毎月連載中です。

尚、おくれげせながら平成23年2月19日(土)に医史学会服御地方会を開催演題も多く盛会でした。

(都久志会館 福岡市天神)

〈プログラム〉

「緒方春朔没後200年記念祭」

富田英壽先生

「東洋&西洋の医論と軍事理論との比較・符合点」

権藤寿昭先生

「医学史」講義内容の紹介 久大非常勤講師(医学史)
 高松凌雲が設立した「同愛社」の推移
 橋本病の歴史：その始まりと定着過程
 「日本最初の解剖書とオランダ外科免状」
 萩の栗山孝庵について

中山茂春先生
 小林 晶先生
 佐藤 裕先生
 原 寛 先生
 木村専太郎先生

(資料B)

法人化についての経過報告

- 1) 平成22年6月11日、第111回日本医史学会総会(水戸、真柳誠会長)で、一般社団法人移行への定款案が可決された。それを受け、横山正夫弁護士へ法人化にむけての書類作成と申請を依頼した。
- 2) 平成22年8月24日、常任理事会と法人化検討委員会の合同会議が行われ、その中で法人化についての報告と設立時社員、役員の選任、税理士の選任についての討論が行なわれた。設立時の社員については現理事のそのままの就任が決定した。税理士の選任については検討課題となった。
- 3) 平成23年3月、新年度の書類作成と登記の学会財産目録の作成のため、土屋税理士に依頼をした。
- 4) 横山弁護士から公証人へ前後2回定款案を評価いただき、平成23年1月最終案が提出された。結果、名称を評議員から代議員へ変更し、監事の選任を代議員の中からを正会員の中からのするという定款変更が行なわれた。
- 5) 平成23年2月初旬までに設立時社員の印鑑証明書を集め、設立時社員の名前、住所に間違いの無いことを確認した。
- 6) 平成23年5月7日、設立時社員の就任承諾書・定款に設立時社員・役員の押印を行い、新法人設立を確認し、直ちに申請、平成23年5月20日認証、平成23年6月1日に登記を行った。

なお、法人化担当理事は平成22年11月25日、日本学術会議で行なわれた「公益法人申請のための最新情報説明会」に参加した際、学会で公益法人をとったのはわずか7団体であり(平成22年10月31日現在)、学術会議では公益法人化への各学会の移行を勧められた。

(文責 西巻明彦)

定款(省略)

雑 報

その他事業報告

1. 高林謙三・桑田衡平兄弟の石碑を建てる会【協賛】

以下の通り除幕式が開催され、理事長酒井シヅが出席した。

日時：平成23年10月23日（日）

場所：日高市北平沢 信号近くの石碑建立場所

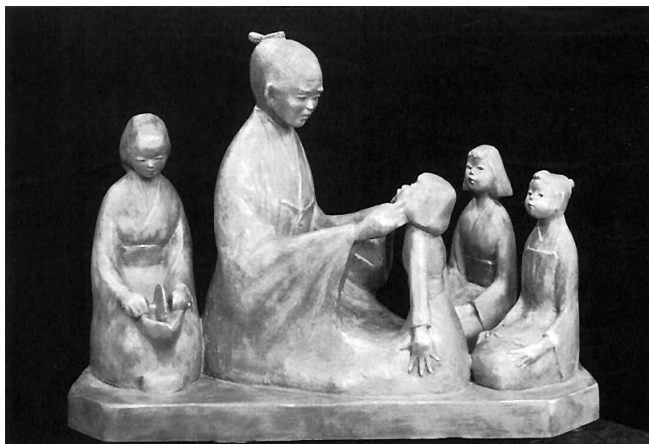


2. 尾台榕堂没後140年記念事業【協賛】

以下の通り除幕式が開催され、理事長酒井シヅが出席した。

日時：平成23年10月29日（土）

場所：東京駅前 八重洲通り南沿い「八重洲ダイビル」西側柳通り歩道



3. 杉山和一生誕400年記念事業【協賛】

杉山和一生誕400年記念事業実行委員会(第15回6/26, 第16回9/19)に北里大学東医研・医史学研究部の天野陽介氏が出席した。

委員会では、杉山和一生誕400年記念事業として記念館(資料館)建設を企画。

記念館は、杉山神社(墨田区)の現社務所に建坪30坪総2階60坪を基本構想として、竣工後、記念館は資料館(財団活動の場を含む)、コミュニティースペースと神社事務所など多目的会館として使用計画。

建築費は1坪約80万円、総経費4,800万~5,300万円を想定し、建築後の運営経費は塙保己一記念館(本庄市)などの運営を参考にし、鍼灸講習所を復興してその収入を財源にすることを検討中。

9月5日現在の募金額は19,847,549円(864件)。

募金趣意書を以下の通りである。皆様のご協力をお願いします。

杉山和一生誕400年記念事業 記念館(資料館)建設募金趣意書

財団法人 杉山検校遺徳顕彰会
会 長 和久田哲司
杉山和一生誕400年記念事業実行委員会
委員長 時任 基清

現代日本鍼灸の基礎を築いた江戸時代の全盲のはり医、杉山検校和一(1610~1694)は、2010年をもって生誕400年になりました。奇しくも、最近、関係古文献も公となり、歴史的研究も深まってまいりました。そこで、和一への報恩感謝の念を込め、日本鍼灸の未来への飛躍の礎となるべく、記念館建設事業を計画いたしました。

和一は、日本のはりの特徴である管鍼を考案し、徳川幕府の公認した「鍼治導引稽古所」において、その教育を行いまたく間に全国に普及して現在に至っています。

徳川五代将軍綱吉の病を治し、その功績により賜わった江島杉山神社の現在地に、史料の保存・公開、研究会などの開催施設として、記念館を建設いたします。

世界に冠たる日本鍼灸発展のため、当財団の趣旨をご理解いただき、基金募集にご賛同・ご協力をお願い申し上げます。

杉山和一業績

- ①日本鍼術の特徴としての管鍼の考案。
- ②世界で最初の視覚障害者教育確立。
- ③視覚障害者の職業としての鍼灸、導引を定着し、その社会的自立の道を拓いて社会福祉の先達となった。
- ④江戸時代の視覚障害者団体の組織固め、音曲および金融事業の確立に尽力した。

【備考】

①すべての寄付者名を芳名録に記録保存するとともに、10万円以上ご協力いただいた方は、ご芳名を銅板に刻して、感謝の意を表します。

②別紙専用払込用紙をご利用ください。

払込先 ゆうちょ銀行 00190-5-281484

財団法人 杉山検校遺徳顕彰会生誕400募金

③連絡・問い合わせ先 鹿濱秋信（財団副会長）

TEL/FAX 03-3899-2383

〔実行委員・発起団体〕

公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会

公益社団法人 日本鍼灸師会

社団法人 日本あん摩マッサージ指圧師会

社団法人 全国病院理学療法協会

東洋はり医学会

一般社団法人 日本医史学会

日本理療科教員連盟

社会福祉法人 日本盲人会連合

社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

墨田区千歳1丁目・2丁目中央町内会

〔協力支援団体〕

社団法人 東洋療法学校協会

日本理学療法機材工業会

全国盲学校PTA連合会

全国盲学校長退職校長会

社会福祉法人 桜雲会

社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会

（順不同）

寄贈本リスト

【単行本】

- 七木田文彦『健康教育教科「保健科」成立の政策形成』「学術出版会」2010
 田口喜久恵『近代教育黎明期における健康教育の研究』「風間書房」2010
 鈴木七美, 藤原久仁子, 岩佐光広『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』「お茶の水書房」2010
 麻布大学附属情報センター『獣医資料館寄贈選定図書目録』2010
 阪上正信『蘭学者 川本幸民の「化学新書」解説・実験の手引き』「三田市郷土先哲顕彰会」2010
 廣川和花『近代日本のハンセン病問題と地域社会』「大阪大学出版会」2011
 吉元昭治『老荘とその周辺』「たにぐち書店」2011
 荒井保男『日本近代医学の黎明』「中央公論新社」2011
 横田陽子『技術からみた日本衛生行政史』「晃洋書房」2011
 佐賀大学・佐賀学創成プロジェクト『佐賀学 佐賀の歴史・文化・環境』「花乱社」2011
 姜 克實『近代日本の社会事業思想』「ミネルヴァ書房」2011
 金山知新『医学史小ばなし』「メディカルトリビューン」2011
 小田泰子『スペイン風邪流行とその時代』2011
 汪 正仁『東洋医学の真髄』「成山堂書店」2011
 財団法人 洪庵記念会 除痘館記念資料室『緒方洪庵生誕200年記念 大阪の除痘館』2011
 岡田靖雄『戦争のなかの精神障害者』「青柿舎」2011
 天理図書館『天理図書館開館80周年記念特別展 一新収稀覯本を中心に一』「天理ギャラリー」2011
 小形利彦『山形県済生館の洋学史的研究』「大風出版」2011
 森本武利 編著, 酒井兼一 訳『京都療病院お雇い医師ショイベ 一滞日書簡から一』「思文閣出版」2011
 青柳精一『近代医療のあけぼの 一幕末・明治の医事制度一』「思文閣出版」2011
 ミヒェル・ヴォルフガング, 吉田洋一, 大島明秀 共編『中津市歴史民俗資料館 分館 医家史料館叢書X 史料と人物Ⅲ』「中津市教育委員会」2011
 田中正規『西尾幡豆医師会史 第五巻』「社団法人西尾幡豆医師会」2011
 ギュンター・ペルトナー 著, 榊形公也 監訳『医療倫理学の基礎』「時空出版株式会社」2011
 吉元昭治『鍼灸雑記』「医道の日本社」2011
 笠原和比古 編『一八世紀日本の文化状況と国際環境』「思文閣出版」2011
 佐賀大学地域学歴史文化研究センター『佐賀大学・小城市交流事業特別展 小城の医学と地域医療 ～病をいやす～』2011

【別 刷】

- 『緒方洪庵の日記を読む 一除痘館研究の側面から一』古西義麿「醫譚」(109)
 『奈良から平安初期における日本人の自殺一』『続日本紀』『日本後紀』による検討』鈴木英鷹「日本医事新報」(4517)
 『丹波の種痘医・足立敬里の学統をさぐる一牛痘種痘法普及に関する一考察』古西義麿「日本文化の攻と守」
 『日本の医療史, 特に入院施設の歴史』酒井シヅ「日本医師会雑誌」139(11)
 『萩藩医坪井信道 一萩藩における蘭学導入の経緯について一』森川 潤「広島修大論集」51(2)
 『松江藩立漢医学校「存濟館」の医学教育カリキュラムについて 一山本逸記稿「存濟館医学教導規則」の翻刻一』梶谷光弘「古代文化研究」(19)

『海水浴』の語誌的研究』青木純一, 北野与一「東京都市大学人間科学部紀要」(2)

『患者運動の存立基盤を探る 一戦中から戦後にいたる日本患者同盟の動きを中心に一』青木純一「専修大学社会科学研究所『社会科学年報』」(45)

『青木周弼の医学修業』森川 潤「広島修大論集」52(1)

【雑 誌】

『あいみっく』31(4), 32(1-3) 国際医学情報センター

『BIBLIA』(135) 天理図書館

『Chinese Journal of Medical History』40(3-6), 41(1-4) Chinese Medical Association

『Capsule』(89) 日本製薬工業協会広報委員会

『Chinese Medical Journal』123(20-24), 124(1-18) Chinese Medical Association

『だより(練馬区医師会)』(513-523) 練馬区医師会

『福井県医師会だより』(595-605) 福井県医師会

『北陸医史』(33) 北陸医史学同好会

『北辰』(11) 北海道医史学研究会

『醫譚』(通刊109-110)(復刊92-93) 日本医史学会関西支部

『医道の日本』69(12), 70(1-11) 医道の日本社

『いわちどり(小笠医師会誌)』(38) 小笠医師会

『JMAJ』53(6), 54(1-4) Japan Medical Association

『Journal of Anesthesia』24(6), 25(1-5) Japan Society of Anesthesiologists

『漢方の臨床』57(11-12), 58(1-10) 東亜医学協会

『漢方と鍼』35(1-4) 北里研究所東洋医学総合研究所だより

『啓迪』(28) 京都医学史研究会

『神奈川県医学会雑誌』37(2), 38(1) 神奈川県医師会

『杏雨』(14) 公益財団法人 武田科学振興財団

『研究紀要』(5) 佐賀大学地域学歴史文化研究センター

『明治薬科大学研究紀要』(40) 明治薬科大学

『練馬医学会誌』(520)

『日本医師会雑誌』139(9-12), 140(1-8), 特(1-2) 日本医師会

『日本獣医史学雑誌』(48) 日本獣医史学会

『日本歯科医史学会誌』29(1-2) 日本歯科医史学会

『鳴滝紀要』(21) シーボルト記念館

『労働科学』86(6), 87(1-3) 労働科学研究所

『労働の科学』66(1-11) 労働科学研究所

『STETHOSCOPE』(200-203) 日本医学切手の会会報

『斯文会々報』(65) 斯文会

『斯文』(120) 斯文会

『洋学史研究』(28) 洋学史研究会

『除痘館記念資料室だより』(3) (財)洪庵記念会・除痘館記念資料室

『大韓韓医学原典学会誌』24(1-3) 大韓韓医学原典学会

『湘南史学』(20) 東海大学大学院日本史学友会

『北播磨探史研究会報』(8-9), 別報 北播磨探史研究会

日本医学会だより

JAMS News

2011年10月 No.46
日本医学会

◆第28回日本医学会総会特別企画

第28回日本医学会総会は本年3月の東日本大震災の影響により開催形態の変更を余儀なくされたが、9月17日～18日、特別企画として東京国際展示場にて学術講演会が開催された。

放射線医療、震災後の地域社会と医療、医療と情報、「医の現在」から「医の未来」への4課題についてのシンポジウム他、記念講演2題、セミナー1題、講演20題が行われた。

◆第141回日本医学会シンポジウム

「がん分子標的治療の進歩」をテーマに、12月8日(木)13:00～17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、前原喜彦、野田哲生、田村和夫の各氏。郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて申込み受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月7日に開催し、平成23年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞23、奨励賞38を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・マウスモデルを用いた大腸がんの研究/武藤誠(京大・遺伝薬理学)
- ・わが国から胃癌を撲滅するための具体的戦略/浅香正博(北大・がん予防内科学)
- ・超高齢社会における新しい運動器学の構築とその病態解明、および先端的評価法・治療法の開発/中村耕三(国立障害者リハビリテーションセンター)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・睥β細胞の分泌準備分子機構の可視化解析：神経終末との対比/高橋倫子(東大疾患生命工学センター・構造生理学)
- ・新規生体分子イメージングによる慢性炎症を基盤とする生活習慣病病態の解明/西村 智(東大・循環器内科学)
- ・ヒト体細胞から直接ヒト心筋細胞を作成するリプログラミング技術の開発/家田真樹(慶大・循環器内科学)
- ・肺がん原因遺伝子EML4-ALKの発見と臨床応用/曾田 学(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・自然免疫系におけるウイルス認識機構に着目した新たな感染防御へのアプローチ/高岡晃教(北大遺制研・分子生体防御分野)
- ・筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価/丸山博文(広大原爆放医研・分子疫学)
- ・消化器癌幹細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用/石本崇

胤 (熊本大・消化器外科学)

- ・通信情報技術を活用し構築した緑内障診療支援システムの課題と有用性の証明/柏木賢治 (山梨大・地域医療学)
- ・長寿・老化モデルマウスを用いた慢性炎症機構の解明/南野 徹 (千葉大・循環病態医科学)
- ・脳梗塞に対する血管保護療法の確立に関する研究/下畑享良 (新潟大脳研・神経内科学)
- ・消化器癌細胞全ゲノム解析による再発転移機構の解明/三森功士 (九大別府病院・外科学)
- ・凍結免疫療法を併用した新しい脊椎転移がん手術の開発/村上英樹 (金沢大・機能再建学)
- ・卵巣癌の分子生物学的特性を利用した新規治療法の開発/中山健太郎 (島根大・産科婦人科学)
- ・尿路結石の形成機序における環境要因と遺伝要因からみた病態解明/安井孝周 (名市大・腎・泌尿器科学)
- ・ヒトパピローマウイルスを指標とした原発不明癌頸部リンパ節転移の個別化治療/猪原秀典 (阪大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

□日本医学会法人化準備委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、本年度新設された委員会で、委員は富野康日己(委員長)、里見 進(副委員長)、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、福永慶隆、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。第1回委員会は9月13日(火)に開催された。

□日本医学会分科会利益相反会議

「産学連携における医学研究とCOIマネジメントの在り方」をシンポジウムテーマとした第2回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月16日(水)13:00~16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ

(<http://jams.med.or.jp/>)にて、申し込まれたい。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「国際的なCOIマネジメントの現状と動向」(J. Patrick Barron 東京医科大学国際医学情報学主任教授)、「医科系大学におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(玉木俊晃 国立大学医学部長会議研究倫理に関する小委員会委員長)、「学会におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(高後 裕 旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授)、「製薬企業におけるCOIマネジメントへの取り組み」(花輪正明 日本製薬工業協会医薬品評価委員会副委員長)、「医学研究における産学連携と国民の理解」浅井文和(朝日新聞社編集委員)のそれぞれの講演が行われる予定。

□移植関係学会合同委員会

第30回移植関係学会合同委員会が平成23年9月6日、厚生労働省で開催された。

小腸移植実施施設については、旭川医科大学病院、自治医科大学附属病院、国立成育医療研究センター、熊本大学医学部附属病院の4施設が追加認定された。

肝臓移植実施施設については、岩手医科大学附属病院が追加認定された。

心肺同時移植実施施設については、東北大学病院が追加認定された。

腎臓移植のレシピエント登録は、「透析導入後またはそれに準ずる者」とされてきたが、透析導入前の腎不全患者にも適応を拡大することとした。

肝臓移植レシピエント適応基準については、「劇症肝炎」「肝移植後肝不全」および「非代償性肝硬変」の重傷度の評価基準などを変更した。

心臓移植レシピエント適応基準では、「60歳未満が望ましい」となっていたが、「65歳未満が望ましい」へ変更することが発議され、臓器移植委員会における、心臓移植希望者選択基準に係る検討の結果を踏まえて、施行されることとなった。